

第5・6学年 外国語活動指導案

日時 平成24年9月27日(木) 5校時
児童 第5学年 男3名 女5名 計8名
第6学年 男6名 女1名 計7名
授業者 木村 裕子

1 単元名 Turn right. (Hi, friends! 2 Lesson4)

2 単元について

(1) 教材について

本単元では、方向を表す表現を使って道案内を体験する。道案内をするという活動は、実際には言葉だけで行うのは非常に難しいものである。しかし、実生活においても目的地へ行きたいという必要性は非常に高い。そこで、「道(場所)を尋ねる」、「実際に案内する」という明確な目的をもつことで、児童が友達と積極的に話そう、聞こうと学習に主体的に参加できると考えた。さらに、相手に正確に情報を伝えるためにはコミュニケーションが大切であることを実感させたい。

また、本単元では道案内をするにあたり、方向を表す表現に加え児童の実生活に密着した建物等の名前についても体験的に学習する。日常生活で馴染みのある建物を扱うことで、英語と日本語の発音やアクセントの違いにも気付かせたい。

(2) 児童について

昨年度から外国語活動が週に1回時間割に組みこまれ、今年度は5、6年生と一緒に「Hi, friends! 2」を使って活動している。6年生はすでに「英語ノート1」で学習や経験を積んできているため積極性が見られ、5年生をリードしながら活動している。一方、5年生も外国語活動の時間を楽しみにしており、覚えた表現を休み時間に友達同士で言い合ったり、チャンツを口ずさんだりする姿が見られる。

幼少の頃から少人数で密に生活してきた子どもたちであるため、コミュニケーションに関しては、男女や学年の分け隔てなく接し仲がよい。また、月に2回程来校するALTに対しても親しみを持って接し、話していることをジェスチャーから想像し内容を理解しようとしている。

(3) 指導について

方向や動作を表す単語や表現を使って、目的地までを表すことは難しいと考えられる。そのため、体験的な活動を繰り返し行いながら、表現方法に慣れ親しむようにしたい。同時に、気持ちよくコミュニケーションを図ることも体験させたい。

また、単元の前半では、建物の名前についても学習する。日本語と英語の発音やアクセントが違うことに気付かせ、言語への興味を育てていきたい。

【わかる】 児童が興味をもって答えたいような提示をしたり、意欲的に取り組めるゲームを導入することにより、町中で見られる建物の言い方を知り、日本語と英語では発音やアクセントが違うことに気付かせる。

【できる】 繰り返し英語を聞いたり話したりしながら、自然に話すことに慣れるような活動を多く取り入れていく。友達やALT、HRTと会話したり、全員の前で話す時間も設けながら、一人一人が安心して英語を話すことができるようにしていきたい。

【かかわる】 児童が伝える楽しさや伝わる喜び、相手の言いたいことが分かる喜び、やり取りの楽しさを味わうことができるよう、対話を中心にしたActivityの工夫をしていく。

3 単元の目標

- ・積極的に道を尋ねたり、道案内したりしようとする。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- ・目的地への行き方を尋ねたり言ったりする表現に慣れ親しむ。(外国語への慣れ親しみ)
- ・英語と日本語とでは、建物の表し方が違うことに気づく。(言語や文化に関する気付き)

4 単元の指導計画

本単元は全4時間で、次のような構成になっている。

時	目標と主な活動	評価
指導者	【P】：【Let's Play】 【C】：【Let's Chant】 【L】：【Let's Listen】 【A】：【Let's Activity】	【気】 ：「言語や文化に関する気付き」 【慣】 ：「外国語への慣れ親しみ」 【コ】 ：「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」
第一時	町中にある様々な建物などの言い方を知り、日本語との違いに気付く。 めあて いろいろな建物や店の名前を聞いてみよう。	
HRT	○ What's this?ゲーム 【P】 おはじきゲーム ○ ミッシングゲーム ○ 指差しゲーム	【気】 英語での建物などの表し方や、日本語との違いに気付いている。 <行動観察、ふり返しカード>
第二時	建物などの言い方や、目的地への行き方を尋ねたり言ったりする表現に慣れ親しむ。 めあて 方向や行き方について言ったり聞いたりして、どこに着くか考えよう。	
HRT / ALT	【P】 サイモンセズ・ゲーム 【C】 Where is the station? 【L】 道案内を聞いて、さくらの祖母の到着場所を紙面に記入する。	【慣】 目的地への行き方を聞いている。 <行動観察、ふり返しカード>
第三時	目的地への行き方を尋ねたり言ったりする表現に慣れ親しむ。 めあて 目的地への行き方を尋ねたり教えたりしよう。	
HRT	【C】 Where is the station? 【P】 どこにあるのかな? 【A】 マッチングゲーム	【慣】 目的地への行き方を尋ねたり言ったりする表現に慣れ親しんでいる。 <行動観察、ふり返しカード>
第四時 (本時)	相手意識をもって目的地への行き方を尋ねたり、わかりやすく道案内したりしようとする。 めあて オリジナルタウンを作り、友達に道案内をしよう。	
HRT	【C】 Where is the station? 【A】 マッチングゲーム 【A】 ペアで道案内	【コ】 相手意識をもって目的地への行き方を尋ねたり、分かりやすく道案内したりしようとしている。 <行動観察、ふり返しシート>

5 本時の指導

(1) 目標

相手意識をもって目的地への行き方を尋ねたり、分かりやすく案内したりしようとする。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)

(2) 研究に関わる手立て

【できる】 前時の【Activity】で活動したことを想起させ、どのような尋ね方や道案内の仕方がよいかを考えさせることにより、相手意識をもって分かりやすく道案内することができるようにする。

【かかわる】 案内する側と案内される側の両方の立場を経験させることにより、相手に伝わるように案内したり尋ねたりすることの大切さに気付かせ、コミュニケーションの楽しさを体感させる。

(3) 評価

評価規準 (コミュニケーション)			努力を要する児童への手立て
	A	B	
5年	・目的地への行き方が相手に伝わるように、分かりやすく案内したり、適切な表現で尋ねたりしている。	・6年生のお手本を参考にし、目的地への行き方が相手に伝わるように案内したり尋ねたりしている。	・6年生と一緒に組み、お手本にしたり教えてもらったりできるようにする。 ・指導者が一緒に道案内をしたり、指示に従ったりする。
6年	・目的地への行き方が相手に伝わるように、分かりやすく案内したり、適切な表現で尋ねたりしている。	・目的地への行き方が相手に伝わるように案内したり尋ねたりしている。	・指導者が一緒に道案内をしたり、指示に従ったりする。

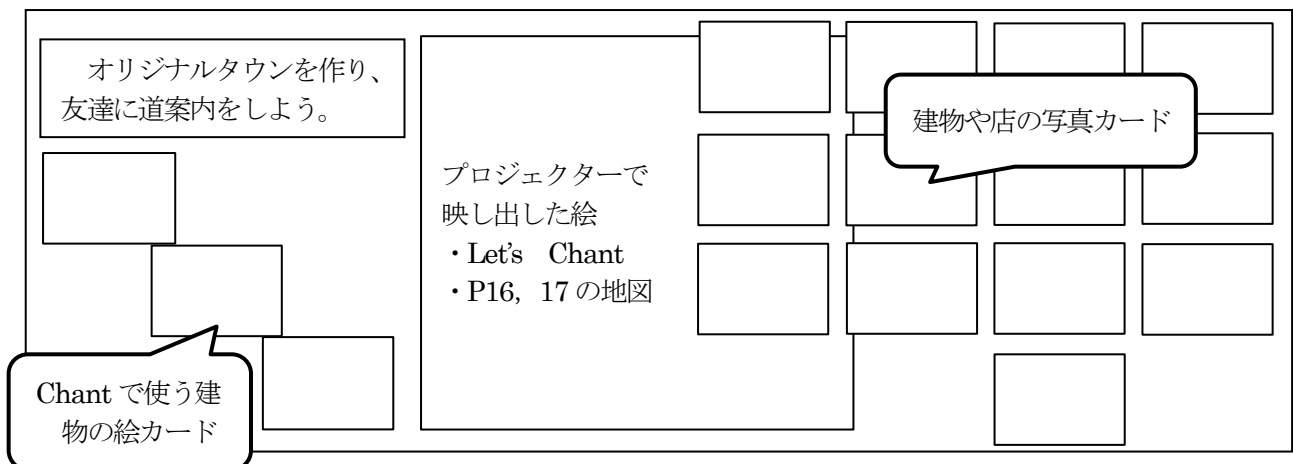
(4) 展開

過程	学 習 活 動	・指導者の支援 ◎評価の観点〈方法〉	教材
挨拶 2分	1 はじめの挨拶をする。 Hello,how are you? Hello.I'm fine/happy/sleepy/hungry. 2 What is the date today? It's September 27th. What day of the week is it today? It's Thursday.	・明るく元気に挨拶をして、楽しい雰囲気始める。	
復習 3分	2 【Let's Chant】 ・“Where is the station?”のチャンツをする。	・建物を替えて言ったり、尋ねる側と答える側の役を交替したりして、変化をつけて楽しくチャンツをさせる。	教師用絵カード (建物) デジタル教材
展開 15分	3 本時のめあてを確認する。 オリジナルタウンを作り、友達に道案内をしよう。 4 【Activity】 ・前時に行った【Activity】をする。 ・ペアになり、相手の道案内を聞いて	・めあてを確認し、自分なりの町を作り、友達に道案内しようとする意欲を高めさせる。 ・児童が活動している間、児童の様子を観察し、道案内や指示に従うのが困難な児童に寄り添い、一緒に道案内をしたり、指示に従ったりする。	デジタル教材 Hi, friends!2 P16,17 児童用絵カード (日本の建物)

	<p>て、相手と同じ町を「Hi, friends! 2」 p16,17 の地図上に作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・でき上がった町を相手に見せ、同じ町かを確認する。 ・役割を交代する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・案内を頼む際には、“Excuse me,” と言って声をかけたり、案内をしてもらった後には、“Thank you.” と言ったりすることで、案内する方もされる方も気持ちよくやり取りできることを児童に体感させるようにする。 <p>【できる】</p>	
展 開 20 分	<p>5 【Activity 2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアまたは3人グループで道案内をする。 <p>① オリジナルタウンに置く建物カードを確認する。</p> <p>② 机をブロックに見立て、12枚の建物写真を1枚ずつ置き、町をつくる。</p> <p>③ デモンストレーションを参考にして、グループで道案内をする。</p> <p>④ 役割を交代する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童にとって身近な建物の写真カードを用意し、オリジナルタウンを作って道案内をすることを告げる。 ・今まで学習してきたことを活用して、自分たちで場所を尋ねたり、それに答えたりする活動を通して、言葉で相手に伝える面白さに気付かせる。 <p>【かかわる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者は、児童が活動をしている間、個々のグループを見て回り、言いにくそうにしている児童にはそばに寄り添い、一緒に道案内したり行動したりする。 ・“Excuse me,” “Thank you.” “You’re welcome.” などの声かけをしっかりと行っている児童をほめ、児童がそうすることの大切さに気付くようにする。 <p>◎方向や動きを指示する表現を使って、相手に目的場所を伝えようとしている。</p> <p>〈行動観察・ふり返りカード〉</p>	建物の写真カード
挨拶 5 分	<p>6 本時のふり返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふり返りカードに記入し、発表する。 <p>7 終わりの挨拶をする。</p> <p>Thank you.</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の英語を使おうとする態度などでよかったところをほめることで、児童に次時への意欲を高めるようにする。 	ふり返りカード

扱う表現 Where is～? Go straight. Turn right/left. Stop.
Excuse me, Thank you. You’re welcome.

(3) 板書計画





外国語活動

ふり返りカード

年 名前 _____

Lesson4 Turn Right.



ふり返り項目	1	2	3	4
•笑顔で楽しく活動をした。				
•相手の伝えたいことを聞き取ろうとした。				
•自分の伝えたいことを相手に伝えようとした。	/	/		
•外国と日本の言葉や文化のちがいに気付いた。			/	/

◎:よくできた

○:できた

△:あまりできなかった

	感想(会話の楽しさや友達のよいところ、新しい発見など)
1	<hr style="border-top: 1px dashed #00aaff;"/> <hr style="border-top: 1px dashed #00aaff;"/>
2	<hr style="border-top: 1px dashed #00aaff;"/> <hr style="border-top: 1px dashed #00aaff;"/>
3	<hr style="border-top: 1px dashed #00aaff;"/> <hr style="border-top: 1px dashed #00aaff;"/>
4	<hr style="border-top: 1px dashed #00aaff;"/> <hr style="border-top: 1px dashed #00aaff;"/>